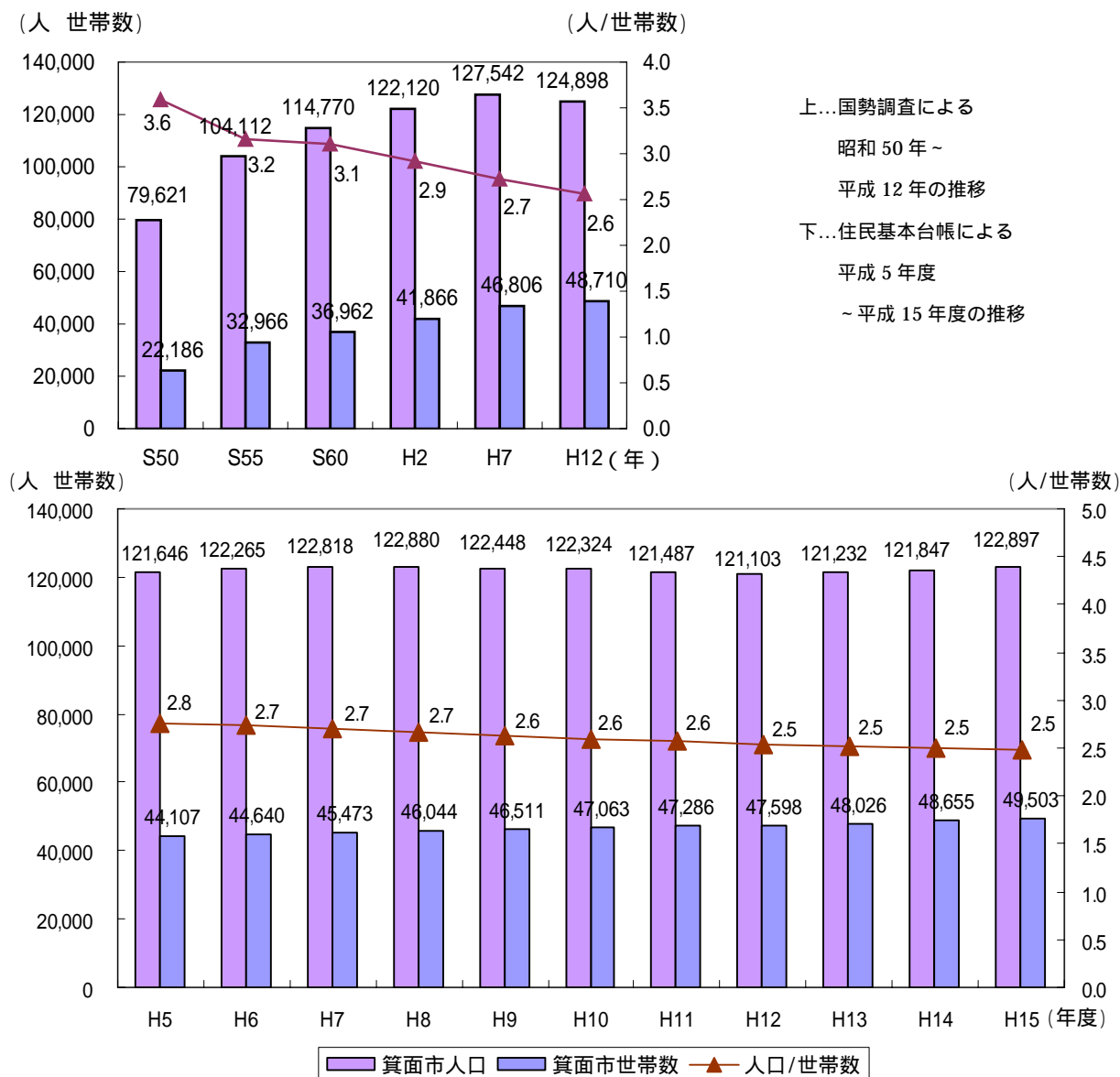


## 4.現状分析

### 1) 人口特性

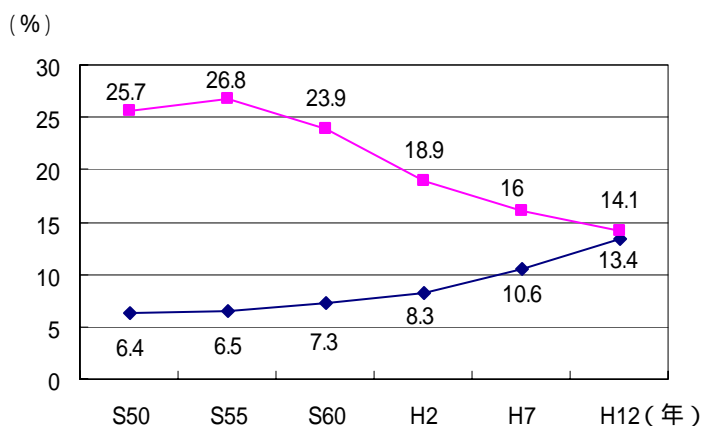
#### 箕面市の人口の推移

【箕面市の人口、世帯数の推移】

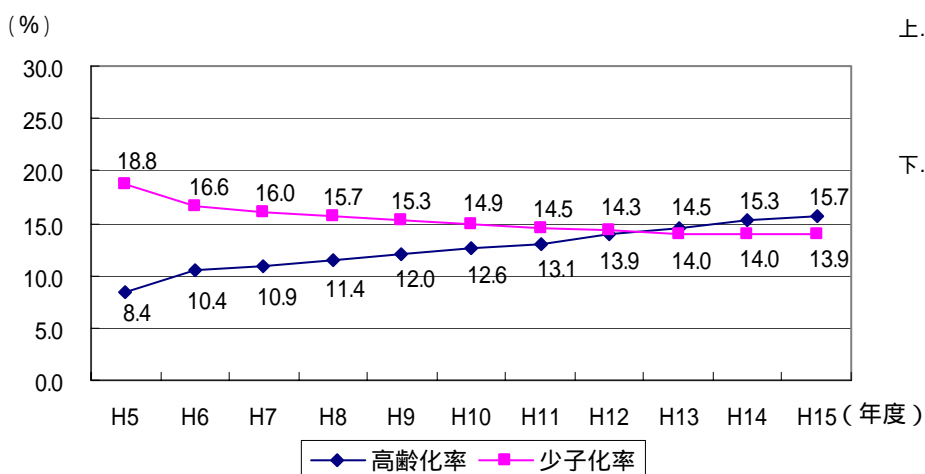


昭和50年代初頭から平成7年までの間に、市街地の開発、住宅地の拡大などによって本市の人口は約60%増加している。その後の平成7年～12年の推移を見ると、約2%マイナスとなっており、僅かながら減少する傾向を示していたが、平成13年以降は現在まで、再び増加傾向にある。一方、世帯数は常に増加傾向にあり、その増加率は人口の増加率を上回っている。人口/世帯数の傾向を見ると昭和50年代初頭では1世帯あたり平均約3.6人であったのが平成15年度末では平均約2.5人となっており、単身世帯、核家族化の傾向が強まっていることが確認できる。

【箕面市の高齢化率・少子化率の推移】



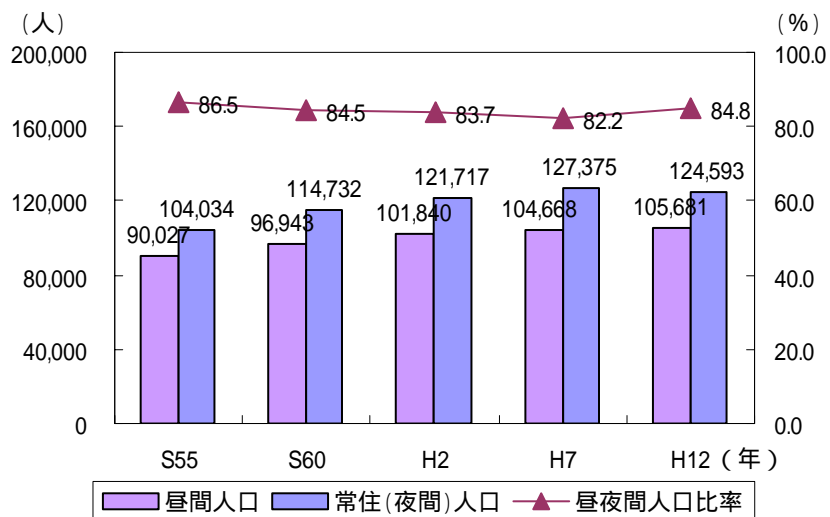
本市の全体人口に対する、65歳以上人口の割合を高齡化率、14歳以下人口の割合を少子化率として、その推移をグラフ化したものである。昭和が終わり、年号が平成に変わった頃以降より、急激に少子化、高齡化が進んでいることが確認できる。



上...国勢調査による  
昭和50年～  
平成12年の推移  
下...住民基本台帳による  
平成5年度  
～平成15年度の推移

箕面市の昼夜間人口

【箕面市の昼夜間人口の推移】

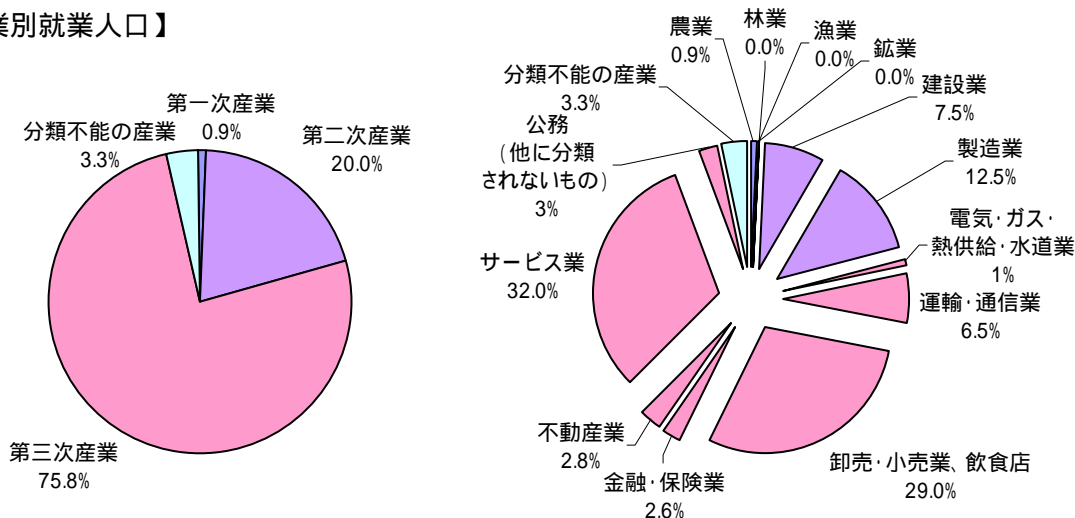


国勢調査 参照

昼夜間人口比率は平成7年の昭和55年比で4.3%減となっている。その後の平成12年の時点で常住人口が減った為、2.6%増となっているが、本市では就業者はやや市外流出する傾向が見られ、ベッドタウンとしての性格を示しているものと推察できる。

### 箕面市の就業人口

【産業別就業人口】



国勢調査 平成 12 年 参照

国勢調査によると、平成 12 年の箕面市の就業者数は 58,267 人であり、市全体人口の 46.7%である。産業別では第三次産業従事者が 75.8%を占めている。最も多いのがサービス業の 32.0%で、次いで卸売・小売業、飲食店が 29.0%となっている。

【産業別就業人口の推移】

	平成2年		平成7年		平成12年		H2～H12の増減比 (%)
	就業者数 (人)	構成比 (%)	就業者数 (人)	構成比 (%)	就業者数 (人)	構成比 (%)	
第一次産業	602	1.1	679	1.1	540	0.9	10.3
農業	590	1.1	674	1.1	520	0.9	11.9
林業	9	0.0	3	0.0	10	0.0	11.1
漁業	3	0.0	2	0.0	10	0.0	233.3
第二次産業	13,870	25.0	13,591	22.4	11,627	20.0	16.2
鉱業	19	0.0	28	0.0	10	0.0	47.4
建設業	4,070	7.3	5,002	8.2	4,360	7.5	7.1
製造業	9,781	17.6	8,561	14.1	7,257	12.5	25.8
第三次産業	40,087	72.2	45,139	74.3	44,171	75.8	10.2
電気・ガス・熱供給・水道業	456	0.8	481	0.8	410	0.7	10.1
運輸・通信業	3,666	6.6	3,758	6.2	3,790	6.5	3.4
卸売・小売業、飲食店	15,700	28.3	17,635	29.0	16,923	29.0	7.8
金融・保険業	2,232	4.0	2,325	3.8	1,530	2.6	31.5
不動産業	1,265	2.3	1,453	2.4	1,611	2.8	27.4
サービス業	15,053	27.1	17,869	29.4	18,646	32.0	23.9
公務(他に分類されないもの)	1,715	3.1	1,618	2.7	1,261	2.2	26.5
分類不能の産業	989	1.8	1,336	2.2	1,929	3.3	95.0
計	55,548	100.0	60,745	100.0	58,267	100.0	4.9

国勢調査 参照

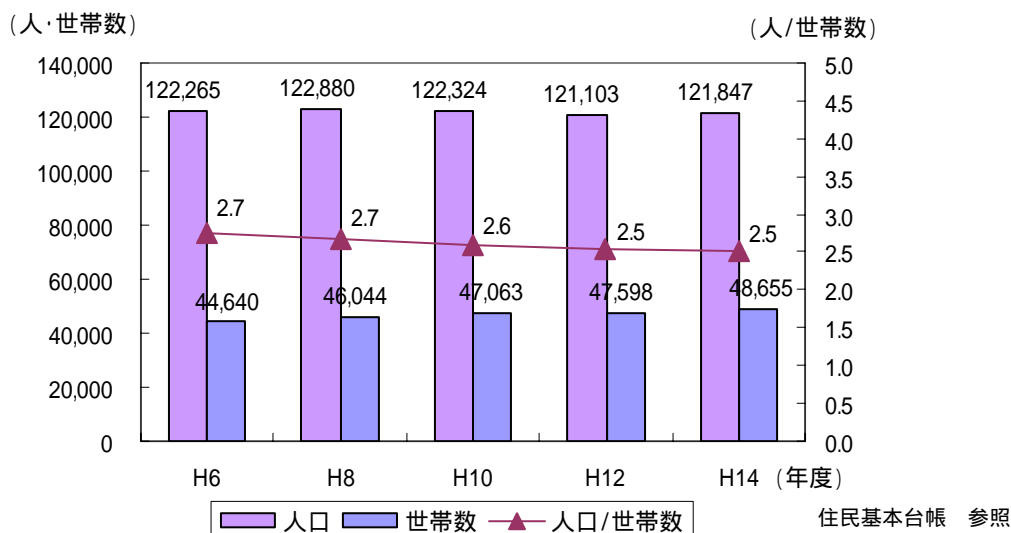
本市における産業別就業人口の平成 2 年～12 年の推移である。平成 2 年～12 年の増減比では、第一次産業、第二次産業の就業者数に減少が見られ、相対的に第三次産業の就業者数が増加している。特に、不動産業、サービス業や分類不能の産業への就業者の増加が著しい。この状況には、本市における住宅供給戸数が年々増加していることや、近年の情報化社会における第三次産業に属するビジネスの多様化等が反映していると考えられる。

### 箕面市及び、中心市街地区域の近年における人口推移の比較

#### (1) 人口と世帯数

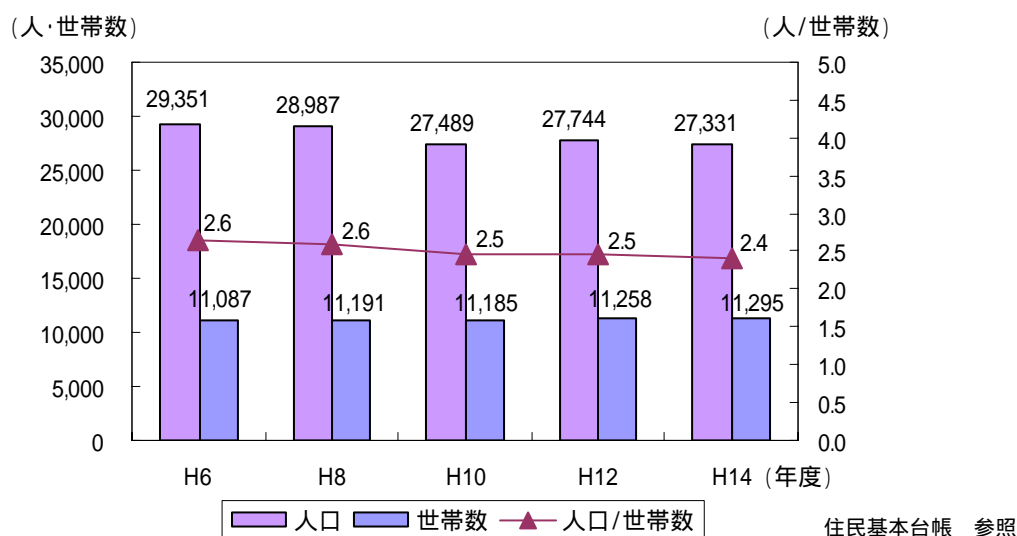
現在(平成16年3月末日)の人口・世帯数		
箕面市全体	人口 122,897人	世帯数 49,503世帯
中心市街地	人口 27,398人	世帯数 11,465世帯

#### 【箕面市全体の人口と世帯数】



中心市街地人口・世帯数は、16ページに示す中心市街地区域に全部ないし一部が含まれる町丁目の人口・世帯数の合計。

#### 【中心市街地全体の人口と世帯数】

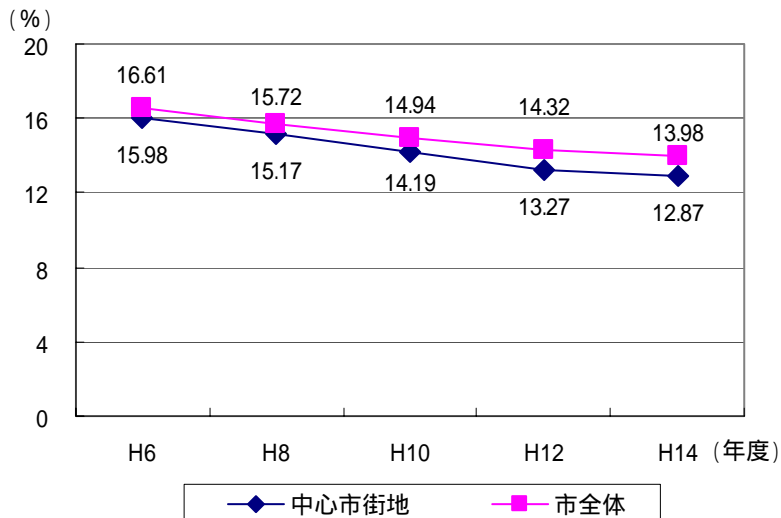


住民基本台帳の平成6年度～平成14年度の各年度末集計値を見ると、平成14年度と平成6年度では、箕面市全体の人口は0.3%減とほぼ横ばいになっている。しかし、中心市街地区域における人口だけに限定した場合は、6.9%の減となっている。中心市街地区域における人口の減少が、本市のなかで特異な状況であることが確認できる。

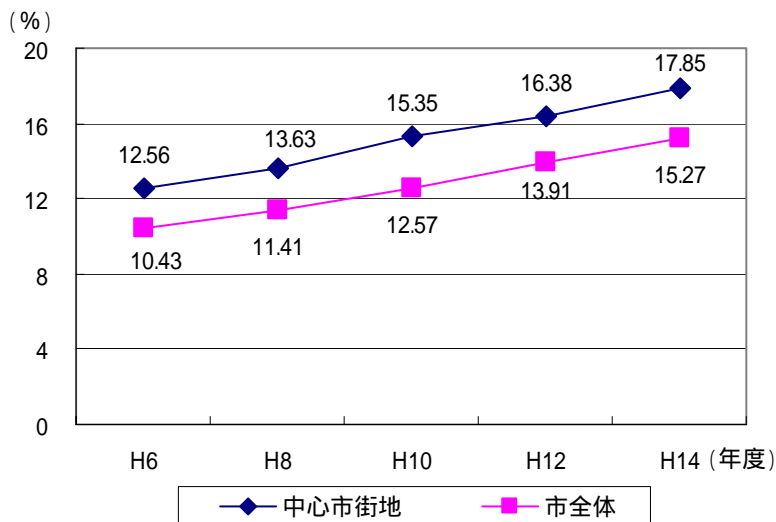
世帯数は、市全体、中心市街地区域ともに微増の傾向にあり、平成14年度と平成6年度を比較すると、市全体では9.0%増、中心市街地区域では6.0%増となっている。人口自体は減少傾向にあるため、単身世帯、核家族化が進展していると推察できる。1世帯あたりの人口については、市全体よりも中心市街地該当区域の方が少ない。

(2) 少子化率、高齢化率

【少子化率】



【高齢化率】



住民基本台帳 参照

全体人口に対する14歳以下の人口の割合（少子化率）は、平成14年度と平成6年度を比較すると、箕面市全体では2.6%減、中心市街地では3.1%減である。

全体人口に対する65歳以上の人口の割合（高齢化率）は、平成14年度と平成6年度を比較すると、箕面市全体では4.8%増、中心市街地では5.3%増である。

市全体、中心市街地ともに少子高齢化が進んでいるが、中心市街地区域内の方が市全体よりもその傾向が大きい。

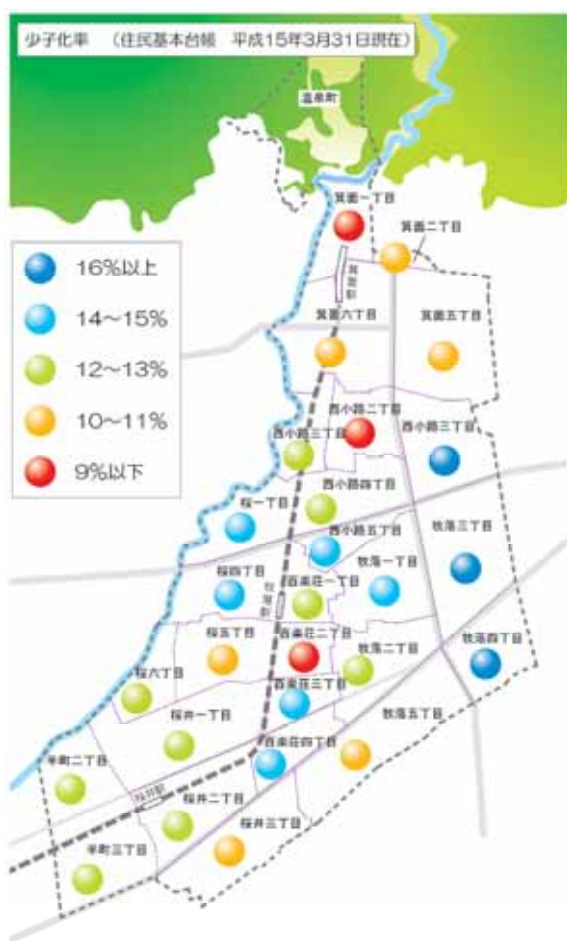
(3) 中心市街地区域における町丁目別少子高齢化率

平成 14 年度末の、中心市街地区域内での町丁目単位の少子高齢化率を算出すると、少子化率は 8%～19%の間、高齢化率は 8%～28%の間で町毎の分布が見受けられる。

少子化率、高齢化率とも下図でオレンジ色、赤色で示している町は、市全体及び、中心市街地平均の数値をいずれも上回っており、高齢化が進んでいる町は、同時に、少子化が進んでいる傾向があることを示している。

箕面駅前周辺、牧落駅前周辺は少子高齢化がともに進んでいる傾向が見られ、加えて桜井駅前周辺は高齢化率がやや高くなっている。これは商業集積地の位置とほぼ重なっている。

中部土地区画整理事業の施行区域である牧落一丁目・三丁目、西小路三丁目や、牧落四丁目といった新しく整備された地区では、反対に少子高齢化がともに低い傾向を示している。

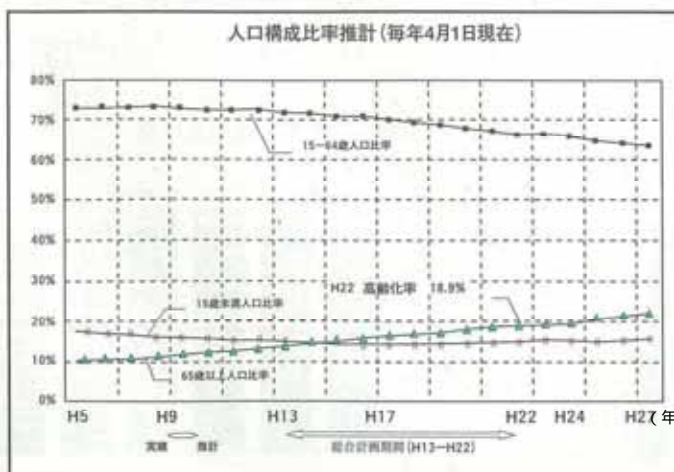
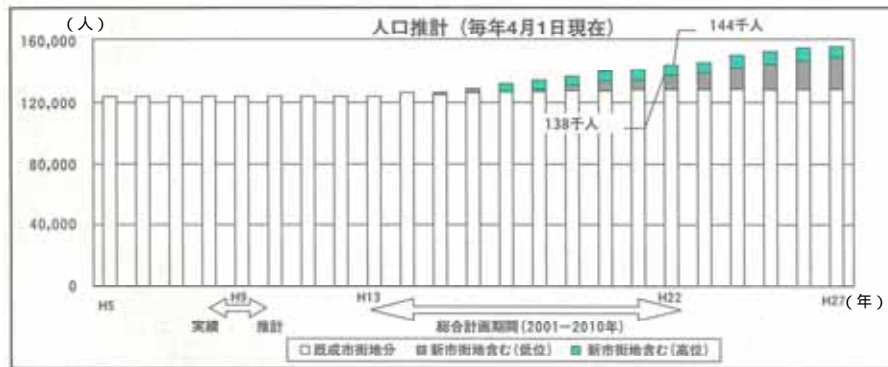


【中心市街地区域の少子高齢化率】



人口推計

【第四次箕面市総合計画による人口推計（毎年4月1日現在）】



第四次箕面市総合計画 参照

第四次総合計画では、人口推計にあたって、本市の人口が横ばい状態で推移していることなどから、平成5年～9年の人口動態が今後とも継続することを前提とし、コーホート要因法による推計を行い、新市街地整備に伴う人口増加分などを、別途、当該年度の人口に加算する方法を用いている。

既成市街地における推計では、自然動態において増加し、社会動態において転出超過が自然増を上回るため、結果として、平成24年（2012年）をピークに人口減少に転じると予測している。

年齢別人口については、高齢化率は増加を続け、総合計画の目標年度である平成22年（2010年）には市全体で約19%に達すると予測している。対して、年少人口（14歳以下）と生産年齢人口（15歳以上64歳以下）は、少しずつ減少すると予測している。

以上より、中心市街地に設定する既成市街地は、箕面市の中でも単身世帯、核家族化、少子高齢化が進展している地域であり、今後もその傾向が進むと思われる。多様なニーズに対応した子育て支援や、高齢者が安心、便利、快適に暮らせることに配慮した生活環境づくりなどを、先行的に実施すべき区域であると考えられる。